



9. 江田川・背戸城廊

「山行期間」 1977年9月10～11日

「パーティ」 山西和文 渡辺良弘
 菅野喜吉 半沢良光 宍戸典子
 渡辺京子 須田敏之(福島労山)
 佐藤広之(福島労山)

「記録」

9月10日(土) 曇一時雨。

福島(13:15) 背戸城廊駐車場(15:50, 16:00) — トツカケ滝(16:10) — 駐車場(16:25)

台風の影響で昨日は強い雨が降り、増水を懸念しながら出発。幸わい雨もあり天気は回復傾向だ。しかし沢は増水が著しい。背戸城廊駐車場に暮営。

9月11日(日) 晴。

駐車場(7:45) — 沢終了(11:15) — 駐車場(12:45, 13:45) 福島(16:45)

7時45分遡行開始。まだ減水に至らず、平常時と比べると相当の増水ということではあるが、そこは小さな江田川のこと遡行に支障はない。遊歩道が完備され、鎖や鉄ばしごが随所につけられているものの、我々のようにそれに頼らず自力で沢を登るとなるとまた楽しさも別である。せまい廊下をぬけ廻り淵を越えると、昨日偵察に来たトツカケ滝である。左岸を直登して釜淵に出る。幅の狭い小滝の上流をエイツと飛びこえて右岸へ。訓練も兼ねてザイルをとり出し、確保をしながら登る。水量が多いため意外に手こずった。しばらく平凡な沢筋が続いて片鞍滝。右岸を登り落口を渡渉して左岸へ。竜門滝を越えると

すぐ黄金とろかし。深い淵で底が見えない。水がすんでいけば青々とした深みになっているにちがいない。左岸をへつる。小滝をこえて亀の寝床。花崗岩の岩肌。フラジのフリクションをきかせてシャワーで突破しようとしたが水勢が強くてダメ。左岸をまく。水が少なれば簡単に登れる滝なのに。続いて鹿の子滝とみかえりの滝。このあたり背戸峯廊の核心部である。すぐ三連の滝に行きあたり、遡行を終える。遊歩道が完全に整備されていて誰でも入谷できるが、沢登りコースとしてもまた結構楽しめる所だった。

(記・西和文)